

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。十月、秋本番ですね。朝晩は寒いぐらいい日も増えてきました。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしているかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

十月と言えば、「食欲の秋」。あるいは、「スポーツの秋」「読書の秋」とも言いますが、何かを「貪欲」に追求するには、天候や気温に恵まれた季節ということでしょう。

「貪欲」に追求する「貪欲(どんよく)」。これも仏教用語です。濁らずに「どんよく」と読みます。語感からはあまり良い印象は受けませんが、日常会話では「あの人は貪欲だね」などと、時には良い意味も込めて使う場合もあります。しかし、仏教用語的にはやはりあまり良い意味ではありません。

「欲」は迷いの根源です。「律蔵」という仏教の戒律書には「すべては燃えている。貪欲(どんよく)の火によって、瞋恚(しんい)の火によって、愚痴(ぐ

ち)の火によって燃えている」というお釈迦様の言葉が残されています。

「貪欲(貪り)」「瞋恚(怒り)」「愚痴(無知)」は仏教では「三毒」と呼ばれ、人間の持つ三つの根本煩惱とされています。

「貪欲」はサンスクリット語で「ラーガ」といい、自己の欲したものを、次から次へと求め続ける激しい欲望を意味しています。人間の「五欲」である「食欲」「睡眠欲」「性欲」「金銭欲」「名誉欲」、全てにおいて「貪欲」は戒められています。

初期の經典のひとつである「スッタニパータ」には「一切のものは虚妄であると知って貪りを離れる人は、迷いの世界から抜け出すことができる」と説かれています。

一方、「欲」は人間の努力の原動力でもあります。試合に勝ちたい、試験に合格したい、豊になりたい。こうした動機が、努力の源です。つまり、健全な「欲」ではなく、貪るほどの欲望である「貪欲」を戒めています。「食欲の秋」と言っても、食べ

過ぎ、飲み過ぎは禁物。今年の秋は生活や食生活も変化させて、「健康の秋」といきましょう。豊かになることは良いことです。が、「金の亡者」と言われるような姿勢は変化させなくてはなりません。と言って使った「変化」も仏教用語です。

「変化」は「へんげ」と読みます。仏教の「変化」は、仏性が人々を救うために仮の姿(化身、権現)となって現れることを指します。救いの求めがある」と現れ、危機が収まれば消えます。

全ての人に仏性は宿っています。誰もが内面、内心に、仏性、仏心を宿しています。それに気づくか否か、仏性に準じた人間になれるか否か。つまり、「変化」できるか否かが、自らを律して自らを救えるか否かの分かれ道となります。「貪欲」から解放される大切な鍵と言えます。

日常会話の中に浸透している仏教用語。まだまだたくさんあり、知らないことばかり。奥が深いですね。



かわら版執筆者大塚耕平
王山「耕庵」 <https://ko-an.blog/>

知県名古屋市生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、中学校を卒業。2002年から地元の歴史・文化と振興のために、日泰寺の縁日(毎月21日)に「弘法さんかわら版」をお配りしています。2013年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師も務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」、「仏教通史」、「四国霊場と般若心経」(大法輪閣)など。

愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務した後、2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田医科大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授(2005~17年)。早稲田大学博士。

大塚耕平事務所 ☎0527571955 担当:あさい
名古屋市千種区覚王山通9-19 覚王山プラザ2F